

# 双京 構想 連続講座

京都は千年以上もの長きにわたり都として栄え、雅な宮中文化が生まれ、今なお、さまざまな形で市民生活の中に息づくとともに、東京の皇居以外で唯一現役の御所があります。

こうした日本の歴史、そして皇室と京都との関わりを踏まえ、京都では、皇室の弥栄を願う「双京構想」の実現に取り組んでいます。

この度、双京構想推進検討会議（京都市 京都府 京都商工会議所）では京都アスニーとの連携の下、以下のとおり「双京構想連続講座」を開催します。

## 双京構想とは

日本の大切な皇室の弥栄<sup>いやさか</sup>、そしてわが国の伝統を守り、文化を発展させるため、皇室の方々に京都にもお住まいいただき、政治・経済の首都である「東京」と、歴史・文化の首都である「京都」の双方で、わが国の都としての機能を果たしていくという構想

## 令和5年度 双京構想連続講座テーマ「京都ゆかりの歴代天皇」

※講師名については敬称略

- ① 8月4日(金) 平安前期の天皇と京都  
ところ いさお 所 功 (京都産業大学名誉教授)
- ② 8月25日(金) 平安後期の天皇と京都  
くれ あさお 久禮 旦雄 (京都産業大学准教授)
- ③ 9月15日(金) 鎌倉・南北朝期の天皇と京都  
ところ いさお 所 功 (京都産業大学名誉教授)
- ④ 9月29日(金) 室町・安土桃山期の天皇と京都  
くれ あさお 久禮 旦雄 (京都産業大学准教授)
- ⑤ 10月13日(金) 江戸時代の天皇と京都  
わかまつ まさし 若松 正志 (京都産業大学教授)
- ⑥ 10月27日(金) 東京時代の天皇と京都  
ところ いさお 所 功 (京都産業大学名誉教授)

連続講座

参加料  
無料

会場

京都市生涯学習総合センター  
京都アスニー〈4階ホール〉  
(中京区丸太町通七本松西入)

時間

各回とも  
午前10時～11時30分

定員

350名(予約不要、先着順)

\*直接会場にお越しください。なお、満員の際は御入場いただけない場合がございます。

京都アスニー

検索

<https://asny.ne.jp>

双京構想連続講座について

京都市総合企画局総合政策室京都創生担当 TEL (075)222-3375 FAX (075)212-2902

主催：双京構想推進検討会議（京都市 京都府 京都商工会議所）

京都市生涯学習総合センター（京都アスニー）

後援：関西広域連合



# 双京構想 連続講座

令和5年度 双京構想連続講座テーマ

## 「京都ゆかりの歴代天皇」



京都産業大学名誉教授  
所 功  
(ところ いさお)



京都産業大学准教授  
久禮 旦雄  
(くれ あさお)



京都産業大学教授  
若松 正志  
(わかまつ まさし)

令和5年

### ① 8月4日(金) 平安前期の天皇と京都

(所 功)

京都は桓武天皇朝から孝明天皇朝まで千年余り、「ミヤコ」(ミカドの皇宮がある処)であったが、簡単に続いてきたわけではない。それが不易の帝都となりえたのはなぜか。

また、平安京の中核「大内裏」と「内裏」はどの場所にあり、どんな規模だったのか。さらにそこで天皇は后妃・女官や公卿・官人たちといかなる日常生活や政務儀式などを行っていたのか。平安前期の主要な資料に即して、その実情を明らかにしたい。

### ② 8月25日(金) 平安後期の天皇と京都

(久禮 旦雄)

桓武天皇により遷都が行われ、嵯峨天皇が「万代宮」と宣言された平安京は、徐々に政治の中心である「都城」から、経済の中心でもある「都市」へと変化し、宇治・鳥羽・白河・六波羅など周辺の開発も進展した。その中で、『源氏物語』や『枕草子』などの王朝文化が花開いたのである。

今回はこのような中世的都市「京都」の成立を、天皇と、それを補佐する摂関、後見役となる「院」(上皇・治天)の役割・関係に注目して史料を見ていきたい。

### ③ 9月15日(金) 鎌倉・南北朝期の天皇と京都

(所 功)

源頼朝が鎌倉に幕府を開いても、京都の朝廷が滅亡したのではない。では、鎌倉時代の歴代天皇及び「治天の君」上皇は、どこを御所とし、公的私的に何をしておられたのか。

ただ、鎌倉時代の皇位継承に幕府が介入するようになり、それを克服して朝権を取り戻した後醍醐天皇も新政に失敗して吉野へ遷られ、足利氏は京都で別の天皇を立てた。その南北朝期に両統の天皇は、どこで何をしておられたのか、可能な限り明らかにしたい。

### ④ 9月29日(金) 室町・安土桃山期の天皇と京都

(久禮 旦雄)

南北朝の動乱が一応の終結を迎えたのち、皇室と京都は応仁・文明の乱と全国的な戦乱、新しい覇者の登場など、さまざまな政治的危機に直面し、経済的にも困窮することとなる。

しかし動乱の中でも、歴代の天皇は国家・国民の安寧を祈り、古典文化の保護者であり続け、京都は長く政治・経済・文化の中心であった。今回はそのような歴代天皇の活動を、天皇ご自身の「お言葉」を中心に、史料に則して明らかにする。

### ⑤ 10月13日(金) 江戸時代の天皇と京都

(若松 正志)

ほかの時代に比べ印象が薄い、江戸時代の天皇。しかし近年、史料の公開・出版、データベース化などによって、その姿が具体的にわかるようになってきた。

今回は、最新の成果を踏まえ、江戸時代の天皇・朝廷と幕府との関係、民衆との関係とともに、天皇・親王・公家の日常生活や和歌などの文化活動についても紹介し、江戸時代の天皇・朝廷の実像や伝統文化の問題に迫りたい。

### ⑥ 10月27日(金) 東京時代の天皇と京都

(所 功)

明治2年(1869年)天皇が旧千代田城を皇居とされたが、京都の御所は依然「皇宮」として今に至る。それが可能になったのはなぜか。

また、東京に常在される明治・大正・昭和・平成・令和の各天皇は、京都と具体的にどのような関係を保ってこられたのか。さらに、今後「双京構想」を実体化していくためには、行政でも民間でも国際的な視野と長期的な展望から何を為しうるかについても、私なりの考えを述べたい。

#### 注意事項について

京都市域に大雨、暴風等の特別警報、暴風警報が発令された場合や大規模な地震が発生した場合など災害の状況により休講とする場合があります。詳しくは京都アスニーのホームページで御確認ください。